

練習場コラボ企画 「ゴルフラウンド会」

コースに出るハードルを下げ ゴルファーを育てる企画を通じ、 ゴルフ練習場が強気に連携

今年5月12日、「花咲カントリー倶楽部」(山梨県大月市)を会場に「ゴルフ練習場コラボ企画『ゴルフラウンド会』」第7回が開催された。複数のゴルフ練習場が連携し、初心者にコースでプレイする機会を提供することで、ゴルフの楽しさを伝え、ファン拡大に寄与しようとする取組みである。同企画の仕掛人で同会を牽引する「ボールパーク」(相模原市中央区)支配人の澤智樹氏、「TIMEZIPS24」(東京都西東京市)を運営する榎田無ファミリールアンド取締役営業企画部長の河野英治氏の話から、同会が目指す市場活性化の取組みについてレポートする。

コンペ形式を廃し ゴルフを「楽しむ」

「新規のゴルファーを育てることが練習場の使命。そのためには練習場だけではなくコースで楽しんでもらうことが重要」と、澤氏は語る。かつてのゴルフは、上司などに誘われゴルフをはじめ、ともにコースをまわることでゴルフアとして育てられてきた。最近はその機会が少なくなっている。ゴルフラウンド会は11年7月、ボールパークで初心者に気軽にコースを楽しんでもらうため、練習場利用者から参加者を募ったのがはじまりである。初回の参加は5組だったというが、それ以降、継続されていくなかで経験者がジュニアや初心者のサポートを行なうなど、会の主旨を追求しながらよりよい運営を目指すためのアイデアが生まれていく。

澤氏は16年6月、業界有志が集う「ゴルフ練習場マネージメントミーティング」の場でこの取組みを紹介。同ミーティングに参加していた河野氏は、それに深く共感したという。「澤さんと同じく、初心者がゴルフコースに行くきっかけをどう提供できるか、試行錯誤していました」と、河野氏は言う。

TIMEZIPS24の責任者(今年4月から田無ファミリールアンド取締役営業企画部長)だった河野氏は17年4月、同施設のスタッフ2人を澤氏の取組みに送り出し、同5月には同施設単独で、澤氏によるサポートのもと、顧客のなかから20人の初心者を募りゴルフラウンド会を開催した。「プレイを終えたお客さまが、いままでに見たことがない晴やかな笑顔だったのが印象的でした」(河野氏)と振り返る。TIMEZIPS24では積極的にコンペを開催していたものの「スコアを競うコンペに初心者が参加しづらいことにあるため気づかされた。ゴルフラウンド会は本当に楽しさが伝わってくる。続けていければいいな、と心から思いました」(河野氏)と語る。

そして17年7月16日、花咲カントリー倶楽部において、ボールパークとTIMEZIPS24の共催により練習場コラボ企画「ゴルフラウンド会」の第1回が開催された。狙いは、練習場の初心者がコースを体験しゴルフの楽しさを知る↓楽しさを知った人が練習場を利用する、という好循環をつくり出すことである。

同企画は、その後の「ゴルフ練習場マネージメントミーティング」で報告され、賛同する練習場がさらにふえて

サポートスタッフは 初心者に安心を提供

第7回の参加者は94人。年齢層は約8割が40歳〜60歳代と、ゴルフ練習場の平均的な客層だが、3割以上が女性である点は練習場の客層と大きく異なる。特徴的なのがラウンド組の構成だ。一組当たりプレイヤー4人にサポートスタッフ1人が付き5人で構成する(受付時にサポートの要・不要を確認)。サポートスタッフはプレイをせず、ボールの捜索、忘れ物の確認、進行が遅れ

■第8回の告知POPイメージ



■組合せ表のイメージ

ゴルフ練習場	人数	料金	予約	備考
ボールパーク	4名	16,000円	要	サポートスタッフ1名
TIMEZIPS24	4名	16,000円	要	サポートスタッフ1名
花咲カントリー倶楽部	4名	16,000円	要	サポートスタッフ1名

たとき初心者に嫌な思いをさせずに調整するなどのサポートに徹する。サポートスタッフには、「安全第一、スムーズな進行、楽しさを伝える、の3つが大事だと伝えている」(河野氏)とし、澤氏は「プロがサポートに入った場合、プレイヤーに『教える』のではなく『おもてなし』のスタンスで接してほしいと常々伝えていた」と語る。サポートスタッフはなにより、プレイヤーに安心を提供することが仕事だ。組分けは施設ごとに枠を決めておき、状況を見ながら調整する。ある施設からの参加者が4の倍数にならないければ当然他施設との混成になるし、施設間でサポートスタッフも融通する。告知や集客は各施設に任ざされており、どの施設も練習場開放、送迎無料など



1. 2. 初心者に「楽しさ」を体験してもらうことを最大の目的とする
3. ボールパーク 支配人の澤智樹氏(左)と榎田無ファミリールアンド取締役営業企画部長の河野英治氏

独自の特典を工夫する。こうした取組みは集客手法の情報交換でもあり、練習場開放などにより相互送客にもつながる。

ラウンド後はあえて表彰式を設けず、スコアも基本的には公表しない。「スコアは付けますが、緩い感じではかまわない。順位・成績ではなく、面白さを味わってもらおうのが主旨」と、両氏は口を揃える。

協賛企業による参加賞は全員が受け取れることもあって、初心者には好評とのこと。実際、参加賞として配られる割引券の使用率が高い点などをみると、練習場活性化の効果も大きい。企画で知り合った人と後日コースに出る、一緒にスクールに通うなど、コミュニティ形成の効果もみられるという。

スポーツ施設など さまざまな業種との連携も

次の第8回ゴルフラウンド会は、「富士高原ゴルフコース」(静岡県小山町)で開催される。花咲カントリー倶楽部以外での開催ははじめてのことだ。「ベストなのはコースを貸し切り、利用の自由度を増やすことによって参加者により楽しんでもらえること」と、澤氏。河野氏も「初心者にとって最もストレスになるのは『早くプレイしなさ

い」という、プレッシャー。それを解消するためには貸切りがベストである。しかし現実には、プレイヤー+サポートスタッフの計5人一組によるラウンドに難色を示すゴルフ場が多い。同企画に共感し、協力してくれるゴルフ場をふやしたいというのが両氏共通の思いである。

貸切りにするためには、参加者数を確保しなければならない。そのため、同企画に賛同するゴルフ練習場を拡大することも重要である。第8回開催では、6施設のコラボによる貸し切りを目指している。

同企画に共感した施設があっても、立地によっては参加がむずかしいことも考えられる。そこで「私たちのモデルを全国各地で試してもらえればよいと考えています。サポートは惜しみません。興味をもっていたいただいた方は連絡していただきたい」と、澤氏は言う。「初心者を気軽にコースへ」という輪を広げていくことが重要と考えているのだ。

今後、ゴルフ練習場やゴルフ場との連携にとどまらず、他のスポーツ施設やさまざまな業種と連携していく可能性も秘める。ゴルフ練習場を起点とした、市場活性化の取組みに大いに期待したい。

■「ボールパーク」施設概要	
所在地	神奈川県相模原市中央区宮下1-1-25
オープン	1997年4月
施設規模	3700坪・72打席/220ヤード
「ゴルフラウンド会」連絡先	042-770-7788

■「TIMEZIPS24」施設概要	
所在地	東京都西東京市芝久保町5-8-2
オープン	1965年7月
施設規模	3700坪・100打席/180ヤード